



ありがとうございました

島 公造さん 井垣教授、本日はありがとうございます。またこの夏リサイタル我がクラブで希望します。よろしくお祈りします。

山本 進三さん 島会長、卓話よろしくお祈りします。本日のクラブ協議会もよろしくお祈りします。

乾 敦雄さん 本日は、よろしくお祈りします。

阪神タイガース応援団一同

本日の累計 8,900円(計3名 4件)(お誕生日お祝い 364,240円 皆出席表彰 40,000円 その他 1,572,609円 累計額 1,976,849円)

ゲスト

韓世大学ピアノ科教授 井垣 秀幸さん

井垣さんは、東クラブの協賛事業である昨年7月5日市民会館で開催された「東日本大震災・台風12号復興支援・日韓文化交流ピアノリサイタル」の主役です。和歌山市出身で帰和された機会に、本日ゲストとして来て頂きました。



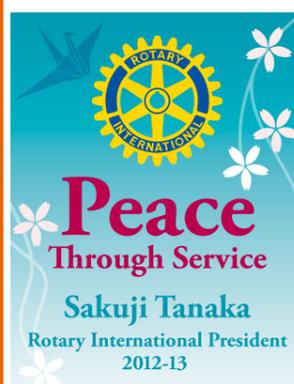
市内ロータリークラブ情報	クラブ名	日 時	内 容
	和歌山城南R.C.	2月14日(木)	クラブフォーラム「創立25周年を迎えるにあたり」
	和歌山南R.C.	2月15日(金)	卓話「海外研修に参加させて頂いて」開智高校インターアクトクラブ
	和歌山中R.C.	2月15日(金)	チャーターナイト記念例会
	和歌山北R.C.	2月18日(月)	第3回I.D.M.発表
	和歌山アゼリアR.C.	2月18日(月)	「創立15周年記念式典予行演習」
	和歌山R.C.	2月19日(火)	卓話 みらい医療推進センター、元気開発研究所 副署長 三井 利仁さん
	和歌山西R.C.	2月20日(水)	クラブフォーラム「世界理解月間にちなんで」
	和歌山東南R.C.	2月20日(水)	例会変更

本日の例会	2月14日(木)	前回の例会	2月7日(木)
●卓話「和歌山の薬物の現況について」 和歌山ダルク代表 和高 優紀さん		●卓話「私の研究発表 ～方丈記を読んで～」 当クラブ会員 島 公造さん	
●皆出席表彰 角谷 芳伸さん 1年皆出席 通算9年 瀧川 嘉彦さん " 通算6年 山本 進三さん " 通算1年		●ロータリーソング 山東 勝彦 ソング委員長 「奉仕の理想」	
●ピアノ演奏 ミュージック・ボックス (Mariah Carey) オネスティ (Billy Joel) 中井 利枝さん		次回の例会	2月21日(木)
		●創立記念例会「在籍表彰」	
		●卓話「キルギス奮闘記～和歌山県人の挑戦～」 和歌山県国際協力推進員 野村 美里さん	

メイキャップ情報 (敬称略)

2月11日(月) 和歌山アゼリアR.C. 島 公造、笹島 良雄、田原 久一、谷口 文利、山本 進三

国際ロータリー第2640地区 和歌山東ロータリークラブ 創立/1959年2月23日
 例会場/ルミエール華月殿 和歌山市屋形町2-10 TEL (073)424-9392 例会日 木曜日 12時30分
 事務局/〒640-8142 和歌山市三番丁6関西電ビル5F TEL (073)432-4343・FAX (073)432-4845
 会報・広報委員会 谷口 文利 笹島 良雄 野井 晋



「確信と絆で作ろう、希望の未来へ!! 今日より一歩」

「奉仕を通じて平和を」

国際ロータリー 第2640地区 **和歌山東ロータリークラブ**
 URL <http://www.werc.jp> E-mail info@werc.jp

2013年2月14日(木)
 週報 / VOL.54 No.30(通巻2576)

会長報告

島 公造 会長



皆さんこんにちは。先週月曜日今日の発表の為に京都下鴨神社へ行って参りました。鴨長明の住んでいた方丈の館いや小屋がそのままあると言う事とその当時の歴史背景の勉強にと初めてまじめな気持ちで行って参りました。おどろいたのは下鴨神社の中に成田山とか和歌山の岡宮さんとか伊勢神宮と20くらいの神社がありまして、賽銭箱も30くらい有り2,000円くらい100玉を用意していましたが足りなくなりました。思った通り月曜日だったのであの広い神社内がららでゆっくり回る事ができ良かったです。友人から聞いていた銀閣寺前のおめんと言ううどん屋でお昼を食べ、これからも京都へ課題を持ってきたいなど久々に青年の様な気持ちで帰途につきました。今回は特別に世相の動きも感じられない1週間でした。

幹事報告

山本 進三 幹事



下記のお知らせ・案内が来ましたので回覧します。
 ・国際ロータリー2640地区より、関西国際空港での広報活動ニュースリリースについて
 ・一般社団法人ロータリーの友事務所より、ロータリー手帳予約受付のご案内 1部630円、5月下旬できあがり予定
 ・こぼと学園より、こぼと学園だより2月号 No.435
 ・一般社団法人和歌山青年会議所より、JCニュース2月号

委員会報告

親睦委員会 櫻畑 友洋 委員長



4月20日、21日の松本空港R.C.の公式訪問のご案内です。詳しい旅程は、皆さんの袋に入っています。さくらの美しい時期であり、友好を深めたいと思いますので宜しくご参加お願い致します。

旅程表

4月20日(土) ※バス配車/8:40 JR和歌山駅東口 >>>>>> (各有料道路) >>>>>> ※途中、昼食・トイレ休憩 >>>>>> 松本東急イン(チェックイン) >>>>>> 9:00 16:30頃 ザ・ブライツガーデン >>>>>> 各自、ホテルへ 18:15頃
4月21日(日) ※朝食 OPEN 6:15~CLOSE 9:30 ホテル(ゴルフ組) >>>>>> 穂高カントリークラブ(ゴルフプレー) >>>>>> ホテル(観光組) >>>>>> 松本市内(松本城など) >>>>>> 6:40 7:30スタート予定/8:00 9:30 ど・安曇野地区 >>>>>> ゴルフ組と合流 >>>>>> (各有料道路) >>>>>> JR和歌山駅東口など2~3箇所程度 15:30頃 23:00頃

宿泊 長野県松本市 松本東急イン(シングル利用) TEL. 0263-36-0109

出席報告

会員数 45名(内出席規定適用免除会員17名) 山東 勝彦 出席委員長

2月7日(本 日)	33名	86.8%	1月24日(メーキャップ後)	29名	85.3%	(欠席者5名)
-----------	-----	-------	----------------	-----	-------	---------

皆さん、出席してください。

卓話「私の研究発表～方丈記を読んで～」----- 島 公造 会長

12月10日。昨日紀陽銀行の千百松支店長が僕に本をと、妻たつ子に預けてくれる。朝から会社で読み出す。十時過ぎ50ページほど読み終わる鴨長明（鴨の長明）作・方丈記すごいこの本を書いたのは1212年文の出足は、「ゆく河の流れは絶えずして、しかも、元の水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたる例（ためし）なし。世のなかにある、人と栖（すみか）とまたかくのごとし。」と、ここから始まるのだが、初めてバツハのトッカーターとフーガを聞いたようなショックでした。すごい。なぜなら私が50歳ぐらの時、岩出橋の下で紀ノ川の流れを見て全く同じ事を考え、人にも話し、たぶんいつかの日記にも書いていると思います。

* 川の流れをみて川の真ん中の水は浪々と流れ人生の調子が良いとき。又川の端で停滞して腐敗しかかってゴミと一緒に泥水、これは重病で心身共に弱っている時、また上流で大雨が降り全部流してくれると、病気も治り又朗々と生命力にあふれ大海に向かって流れるのであります。人生も又目的を持って大海へ生きたいものでございます。川の流れはいつも同じに見えるがいつも違う水なのである、これは長明が感じたそのものであります。人は人生を戦い老いて黄泉の国に又それ以上に新しい命が生まれてくるのであります。人の無情、三毒、十界、五大（地、水、火、風、空、）すべてがこの水の流れに入っているのであります。その感じ方は現在いやいつの世も変わらない、これ又すごい人の世は。しっかり読んでから又感想を書こう。

鴨長明 賀茂御祖神社（かもみおやじんじゅ現京都・鴨神社、下鴨神社）官位・従五位下をもらう。あまり位は上では無いがハイソサエテイの家に生まれる

1155年である。官位は6歳でもらっている。1156年保元の乱、1159年平治の乱が起こり1177年京都で大火事が起こる。1180年京都に大台風が有り都を福原に移す。1181年全国で大飢饉このときは都中処理ができない、死骸がごろごろあったと他の歴史書で読んだ事があります。この年清盛没す。1185年平家滅亡。1186年京都に大地震。こんな中、長明は伊勢に旅行（この当時の大きい神宮は大学でもあったと思います）して又文学に励み和歌集など作成する。彼は音楽にも精通し自身琵琶や楽器の勉強もしているのである、17世紀の作曲家モーツァルトも又貴族それも彼の父は音楽家で有りながら、どういうわけか厳格な騎士長（日本で言えば侍大将）父は厳格だがこの時代の貴族階級は乱れきっていたのである。彼は貴族階級の醜さ、虚栄の世界、みだらな生活も経験し、アルコールにおぼれ貴族会から放り出されるのである。すさまじい貧乏、人生の葛藤をしてあのすばらしいオペラ、オペレッタ、あらゆるジャンルの音楽を彼が35歳で亡くなるまでに620曲を作曲創造したのである。何を言いたいかと言うと国、文化時代が変わろうが、詩、歌、音楽、芸術家、哲学者も味を出す人は同じような人生を歩んでいるとつくづく思いました。話を長明に戻し、彼も又父を亡くしたとき相統争いで実家より放り出されるのである。それからの彼は俗界、庶民の中を歩き回り貴族では分からない世界を感じたのでしょう。だからこその出家で凡人以上の心の葛藤をしたのでは無いか？ そう言う環境で彼は右往左往する世の流れ、もののあわれと感性が育ったのだと思う。1190年西行没す。1200年頼朝（よりとも）没す。1204年50歳で出家と同時に今までのあらゆる職も辞任した、そして京都大原にこもる。54歳、日野の外山に移り方丈の庵（この本の台になっている方丈記の方

丈とは丈すなわち十尺[3メートル]角、四畳半の住まいである、引っ越しするときは建てやを折りたたみ牛車に積み運んだらしいと言う所に住む）。58歳で方丈記を書き1216年62歳彼は没す。文学を愛し、音楽を愛し、その感性で世の中を見るとやはり深いものが見方ができると思います。そこで出家をすることで自分の生き様、あらゆる階層の人々の生き様全部がくっきり見えたのでございます。

* 平安時代の歌人達が和歌の優劣を競う歌合（うたあわせ）と言う競技をしていた。百人一首は鎌倉時代に和歌の大家である藤原定家が百人の歌人の和歌を一首ずつ選んで書いた事が始まりであります。[実は百人一首は四十三首は恋の歌。例えば、平安時代の結婚は、夜になると男性が女性の元に通う「通い婚」であり、和歌ではいつ来るか分からない男性を待つ女性の切ない思いが読まれたりしています]

ちなみに長明は若くして歌人として貴族会との付き合いは多いが官位は低かった。ただ彼の作品も百人一首に入っている。新古今和歌集には「石川や瀬見の小川の清ければ月も流れを尋ねてぞすむ」を初め十首も載っているとの事。また京や鎌倉の大きい歌会には常に出ていたトップクラスの文化人であった。

** 余談の余談。百人一首は江戸時代身分の高い所から町人の女子（寺子屋）の教材に使われていた。

私は簡単に走り書きをしたのですがそれは62歳までの彼の人生、相当重い密度があったと思う。我が人生とも相当重なると思います。なお800年前も現在も人は苦悩との葛藤で生きるのと同じでございます。

玉敷の都のうちに、棟（むね）を並べ、葺（いらか）を争える、高き、賤しき、人の住まひは、世々を経て、尽きせぬものなれど、これをまことかと尋ねれば、昔ありし家稀なり。或（あるい）は去年（こそ）焼けて、今年作り。或は大家滅びて、小家となる。住む人もこれに同じ。所も変わらず、人も多かれどいにしへ見し人は、2、30人が中に、わずかに1人2人なり、朝（あした）に死に、夕（ゆうべ）に生まるるならひ、ただ水の泡にもぞ似たりける。

玉を敷いたように美しい平安京に競ってりっぱな家屋を建て並べ、身分の高低は時間が過ぎれば変わっていくでしょう。いつまでも同じ形にはいない。昔あった家も火事で無くなり又嵐で吹き飛ばされ、今年立て直しているかも、又大家が滅び小家に、住む人も又これと同じ。所も変わらず、人も多いけれど、昔知っていた人も2、30人の中、わずか1人か2人である。朝に亡くなる人があれば、夕方生まれる命もある。これは世の常であるこれらの出来事は流れる水の泡と似ている。（清流でザザーと流れる水から泡が生まれ又消えて行く）

無情を説いていると私は思う。ただこの文は文上で読むとトーンダウンに至ります。文底で読めば、事業に成功し豪邸を建てるも、又見栄の張り合い、成功者も永遠にその成功はあり得ない、だからおごってはいけない。人の世は陽炎のようなもの謙虚に生きる事。私の会社も時代の流れにより倒産もあり得ます。ただ私たち凡人は喜びも趣味の世界も闊歩（かっぱ）しなければいけない、もちろん家族含めての大生（おおか）する。それが幸せと言う事です。水の泡という短い命（良く動き良く楽しんで黄泉の国とやらへ）